

義経岩

ここでは、砂岩と泥岩の互層が傾いていることから台地の隆起について学習できます。また、石灰質砂岩に残る穿孔貝の化石も観察することができます。

穿孔貝の化石

雨晴海岸の義経岩には、下の写真のような穴がたくさん開いています。これは、穿孔貝と呼ばれる仲間の貝や蟹などが巣などを作るために掘った穴がそのままに化石になったものです。太田石には、このような生息痕化石が数多く見られます。高岡市の本丸会館前の駐車場や、中田小学校の玄関脇の礎石など児童の身近なところにあります。



義経岩に残る生息痕



石灰質砂岩に残る生息痕



巣穴の跡

どんな貝が岩に穴を開けるの？

現生種で岩に穴を開けて暮らしている貝には、次のようなものがあります。

貝殻を動かしてドリルのように穴を開ける……カモメガイ、ニオガイ、ニオガイモドキ、
モモガイ、ウミタケガイ

酸を出して岩を溶かして穴を開ける……イシマテガイ

隆起した跡の残る泥岩・砂岩互層

義経岩の横を通って海岸に出ると、泥岩と砂岩が交互に出てきます。海岸の地層と義経岩、さらにホテル雨晴の露頭の傾きを比べることで、これら3つの地層がつながっていることをとらえることができます。この地層が水平ではなく傾いている原因を考えることで、大地の動き（石動断層や海老坂断層や二上山の隆起）などをとらえる手がかりとすることもできるのではないのでしょうか。